



# えんだより

2026年 1月 5日発行

明けましておめでとうございます。

今年もよろしくお願ひします。

## 「これから保育園とセツルメントの精神について」

### ～法人の第三次中期計画進捗状況をもとに～

社会福祉法人雲柱社では、毎年の事業計画に加え、10年間を見据えた中期事業計画を策定しており、2026年は、第三次中期事業計画（期間：2021年4月～2031年3月）の折り返しの年にあたります。

計画当初は、待機児童問題が再燃された背景もあり、当法人でも親子で通園できる「ひろば事業」、「一時保育や休日保育」さらに深夜22時までの「夜間保育事業」など、利用者の多様なニーズに応えるべく事業を拡充してまいりました。しかしながら、コロナ禍の影響により、ゼロ歳児クラスに欠員、待機児童の著しい減少など、保育園事業に大きな打撃を受け、少子化が確実に進行していることを日々痛感しております。

また、急激な人手不足により、法律で定められている職員配置が難しく、各事業所では頭を悩ませています。この人手不足は保育分野にとどまらず、介護や医療分野など様々な産業にも広がり、社会全体の喫緊の課題となっております。

第三次中期事業計画では、5つの課題「ミッションの継承」、「地域福祉の展開」、「組織改革」、「人材開発」、「職場・労働環境の整備」を掲げ、創立者である賀川豊彦の思想と実践の継承、具体化を目指します。彼は、セツルメントの精神の基本として「人格交流」を中心に位置づけておりました。そこで、第三次中期事業計画では、「人格交流」Personalityを中心として、「平和」Peace、「共生」Partnership、「開拓」Pioneerをキーワード（4つのP）として、5つの課題に取り組んでまいります。

職員は、平和を愛し、相愛互助に基づく共生社会を構築していくために、人間の尊厳を守りながら自身を変革させ、高みを目指します。そして、子どもたちや保護者、地域の方々等にとって安心安全な保育（支援）を継続して提供できるように努めてまいります。

時代が変わり社会の価値観が大きく変容しても、法人の理念にしたがう我々職員は、賀川豊彦が100年前に実践されたセツルメントの精神を継承し、善き隣人としての行いを心がけて、子どもたちとともに未来に向けて歩んでいくことを願います。

目指すべき社会の理想を次の時代を担う子どもたちに手渡していくために。

社会福祉法人雲柱社

理事長 小磯 満